

スマートフォンの日々

目代純平

12 ネット生放送

smart life
with
smartphone

面白さや奇抜さ狙うため 迷惑をかけたたり犯罪にも

スマートフォンの普及は留まることを知らず、電車の中では9割以上の方がスマートフォンを見ているような情景が日常のものとなってきました。その中でも、だんだんと暑くなってきて、ものを考えるのが面倒になってきたのか、ゲームに興じている人が増え、混雑した通勤電車の中で一心不乱に指を動かす人が続出しているように感じられます。

特にパズルゲームにおいては、1分以内などの制限時間内に行きただけたくさんのブロックやキャラクターを消さないと高得点にならないので、必死です。満員電車の中でそれをするものだから、当然腕や肘などが周りの人に当たります。でも当人はヘッドホンをしてゲームに夢中のためそんなことはお構いなし。ただでさえ混雑で殺気立っている車内ですから、そのうちケンカなどのトラブルが起きてもおかしくない状況です。

大昔は新聞を広げて読む人が迷惑がられ、その後はヘッドホンからの音漏れや使用禁止場所での携帯電話の通話が社会問題となりました。今度はゲームに夢中人の迷惑行為が大きな社会問題として取り上げられるのではないでしょう。何か。何事も他人に迷惑をかけずに節度を持って使うことが大事ですが、スマートフォンはそんなことすら忘れてしまうほど魅力的なものなのでしょうか。

恩恵とともに弊害 テクノロジー進化

テクノロジーの進化は人間の生活に様々な恩恵をもたらし、今まで夢であったことが次々と実現されてきました。電車内でゲームをしたり映画を見たりするほか、今では自宅で録画をしておいたテレビ番組もネット経由で移動中に見られますから、ある意味移動時間を有効に使うことはできるようになったと思います。しかし、テクノロジーの進化に伴いその恩恵だけではなく、もたらす弊害や被害についても考えていかなければなりません。

スマートフォンを使うことによ

って必要以上の時間を浪費されてしまうこともそうですし、もっと直接的なものとしては、ウイルスや有害なアプリによる個人情報流出や金銭的被害などが挙げられ、ネット時代を生きる我々はこれらの危険性とは常に隣り合わせです。まさにこの原稿を書いている時にも日本年金機構(旧社会保険庁)による大量の年金情報流出というニュースが飛び込んできました。

年金機構のデータ漏洩事件 非常に稚拙な原因 手口は進化の一方

日本年金機構の職員が使っていたPCがウイルスに感染し、その結果加入者の年金情報が流出しました。現時点でその数は約125万件と言われていますが、今後さらに増える可能性があるとも言われています。

非常に重要な情報である年金情報が流出したこと自体も非常に由々しきことですが、その発端が「職員がウイルスつきのファイルを開いたこと」というのはあまりも稚拙で非常にレベルの低い話です。そんな感覚で仕事をしている

人たちに我々の年金情報を預けていると思うととても心配になりますよね。

そのような不審なファイルが出てきたものをすぐ開けてしまうのも問題ですが、最近のウイルスは非常に巧妙になってきていて、例えば、「6月の会合の詳細について」など業務上必要なファイル名を装ったWordファイルやExcelファイルに仕込まれているものも多数あります。

そのために、ファイルのタイトルだけで判断するのはとても難しくなっていますし、いちいち手動でウイルスチェックをするというのも面倒で、ほとんどの人は行っていないはずです。

対策ソフトがなぜ働かなかったのか

一つ大きな疑問が残るのは、ノートンアンチウイルスやウイルスバスターなどの対策ソフトがPCに入っていて正常に稼働していれば、この手のファイルを万が開いてしまっても、その瞬間に警告が出てそれらの怪しいファイルを隔離・あるいは消去してくれるはずなのに、なぜ今回はそれをすり抜



日本年金機構の個人情報漏えいを報じる各紙

けて感染して実被害が出てしまったかということです。

おそらく管理が不十分でそれらのウイルス対策ソフトが入っていなかったか(とすればこれは大問題ですが)、何らかの原因で正常に稼働していなかったか、アップデートがされておらず、新種のウイルスに対応できなかったかなどが原因だと思っています。

私どもの会社に初めてご相談をいただくお客様でも、特に中小規模の会社だと「ウイルス対策ソフトが期限切れになっていったが、そのままにしていた」というようなケースは決して少なくないので、それが原因だとしたらあまりにもお粗末です。

今回のケースでも「一部のPC

にはパスワードすらかかっていなかった」というような報道もありますが、個人情報を取扱うPCを運用しているという感覚が完全に欠如しています。

個人情報を取扱う場合 接続や管理を分けて

この事件は今後真相が明らかになつてくると思いますが、近々マインバー制度も始まると思われるのにこのような状態では、管理する機関が違ふとはいえ、必ずまた情報漏洩事故が起こりそうです。ウイルスなど悪質なものも残念ながら日進月歩で進化しており、その対策とはいわちごっこです。

昔はPCのファイルを消したり、決まった日付になると画面いっばいに画像が表示されたりなど、いたずらの要素が強かったウイルスですが、インターネット時代となり様々な機器がネットワークでつながった今日、そのような生やさしいいたずらでは済まされず、リアルに人のお金や個人情報を奪ったり、ネット上にばらまいたりするような悪質なものが急激に増加しています。

そもそも以前は個人情報や経理情報など重要なデータを扱うPCはインターネットに接続しないのが常識でしたが、最近ではOSのアップデートなどがインターネット経由で配信されることもあり、インターネットに接続しないと何かと不便なためセキュリティを確保した上でインターネットに接続するようになってきました。

しかしながら、このように重要な個人情報や場合などは通常よりも強固である特別なセキュリティを施した上で、必要な時にインターネットに接続するなど、やはり通常のPCとは違った運用が必要です。今回はおそらくそのような管理ができていなかったのだと思われまます。

100%安全は無理 教育と訓練がカギに

インターネットも成熟期に入ってきており、利用者が増えると同時に、様々な情報が扱われるようになりまし。それに伴って個人情報や会社や機関はより情報管理を徹底し、今回のような稚拙な原因で情報が流出するような状況を断固阻止しなければなりません。

著者略歴 ● もくだいじゅんぺい

1976年10月28日生まれ、東京都出身。大学4年在学中にチェックフィールド株式会社（現在代表取締役）を興す。中小・中堅規模法人向けのIT運用コンサルティング、運用管理代行を中心に行う傍ら、「安全なケータイ・インターネットの使い方」をメインテーマに講演活動。著書に「子どものための『ケータイ』ルールブック（総合法令出版；2012年）」。

東京都認定eメディアリーダー

ん。

しかしながら、ITがより便利になるのに従い、悪事を働く人間たちの技術も日進月歩なのは否めません。よって、100%のセキュリティはないというのが現状です。ついては今以上の慎重な管理と体制作り、さらには重要な情報を扱う人々への教育とトレーニングを徹底して事故が起こる可能性を限りなく0に近づけていくしかありません。

テクノロジーの進化によって、従来ならば机上のPCでしかできなかったほとんどのことがどこにいてもスマートフォンがあれば実現できるようになりました。その便利さは計り知れませんが、その

代償として情報漏洩のリスクというものはいつでもついてまわります。特にスマートフォンは小さいので紛失や盗難のリスクもはらんでおり、万一紛失したスマートフォンが悪用され、内部の情報やパスワードなどが盗まれてしまったら大きな被害を受ける可能性があります。

「起動パスワード」と「端末内部の暗号化」

そのような不慮の事故の際にも被害を最小限に食い止めるために、「起動パスワードの設定」と「端末内部の暗号化」をぜひおすすめ

「ネット生放送」に憑かれて

前回は子どもたちが実際にスマートフォンを手にして悩んでいることや困っていることなどについてその対処方法やフィードバックについてご紹介しました。スマートフォン

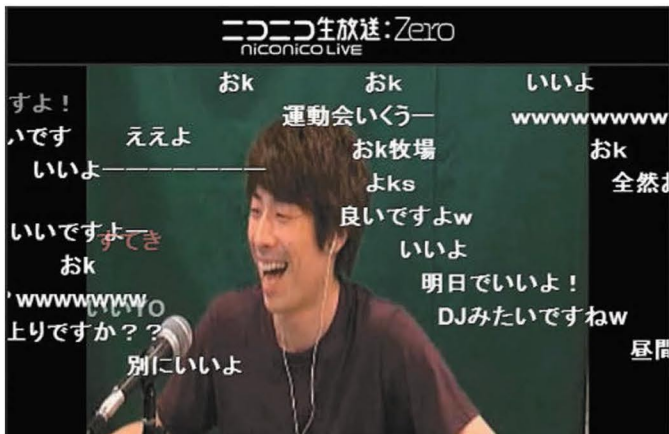
の性能が日々進化していき、それを活用してできることがさらに増えていき、若者や子どもにとっては（大人にとっても）まさに「魔法の箱」なのですが、ゲームやLINEでのやりとり以外に思いもよらない使い方がされ

します。起動パスワードを設定して、毎回使用時にパスワードを入力するようにしておけば、少々面倒は増えますが、それが合わないと思いませんか？まずは安全です。また、内部の暗号化をしておけば、悪意を持った取得者に万一分解されて内部のメモリーを抜き出されたとしても、暗号化が解けなければデータは見られないので、さらに安全です。それでも、身の回りの様々な情報が入っているスマートフォンを無くせばそれだけで被害は甚大ですから、常に注意深くして、紛失事故自体を防ぐことが一番大切なことです。

ていてそれが社会問題になっていくケースがあります。

サイトを利用して ライブ配信の魅力

そのひとつとして挙げられるのは、若者や子どもたちがそれらを使って「ネット生放送（ライブ配信）」をするケースです。現在ネット上にはいくつものライブ配信ができるサイトがあり、多くのユーザーで盛り上がっています。具体



ロンドンブーツ1号2号の田村淳さんが行ったニコニコ生放送の画面。このように画面上にリアルタイムで投稿される視聴者からのコメントが表示される

的にはPCやスマートフォンとカメラ、そしてネットに接続できる回線があれば、それらのサイトのIDを取得して、すぐにライブ配信を始めることができます。

国内の主なライブ配信サイト

ニコニコ生放送

<http://live.nicovideo.jp/>

FC2ライブ

<http://live.fc2.com/>

ツイキャス

<http://twitcasting.tv/>

アフリカTV

<http://www.africatv.jp/>

これらはID別に個人のチャンネル

ネルのようなものが用意されていて、基本的にはその音声と映像がネットを見ている人に生で伝わるといった仕組みです。公序良俗に反することではなければ、基本的に何をしゃべっても自由ですが、人気のある人には多くの視聴者がつきます。

生放送の特徴として、視聴者がリアルタイムにその放送者の画面にコメントができる機能があり、それがまた人気の理由です。放送者は自分の姿を映し出しながら、視聴者の反応に応じて自分独自の番組を作っているのです。

録画だが人気ある「YouTubeユーザー」

こちらも人気の動画サイトである、YouTubeにも同様の機能があります。こちらは生放送ではなく、一度録画した動画をYouTubeに掲載(アップ)して視聴者に見てもらおう仕組みです。こちらも人気の番組を作っている人にはたくさんのファン(フォロワー)がつき、それがまた口コミからフォロワーを増やして、という形でどんどん

アフィリエイトのしくみ



アフィリエイト：自身のサイトで商品の広告をし、閲覧した人がその商品を購入すると購入金額の一部がユーザーに支払われる、成功報酬型広告(図は「楽天アフィリエイト」より)

と増えていきます。

これらの番組を提供している人は「YouTubeユーザー」とも呼ばれ、それを職業にしている人もいるぐらいです。

ひと握りの人だが結構稼ぐケースも

YouTubeやこれらのライブ配信サイトには「投げ銭」と言われる

ような仕組みがあつて、自分が気に入った人や番組に対して寄付のような形でお金を送れるのです。そのために、人気のある放送者は収入を得ることができるようですが、さらに人気が出て、視聴者が増えてくるとアフィリエイトという仕組みを使ってサイトに広告を募ることによってその費用も得ることが出来ます。

これらの仕組みを使い、うまくやれば放送をするだけで収入が得られるのですが、生活に十分な収入を得るためには人気のある番組を継続して作らなければならず、実際に成功しているのはほんの一握りの人だけだと言われています。

配信に明け暮れたドローン少年事件

先般、善光寺ご開帳の行事や首相官邸近くでリモコンヘリコプターである、いわゆるドローンを飛行させたり、浅草の三社祭で飛行させると予告して逮捕された15歳の少年のことがニュースになりましたが、彼が行っていたのがまさにライブ配信であり、その魅力に取り憑かれた彼は名門中学を中退してまで、その配信に明け暮れて

いました。

連日のように配信を行って、ネット上の話題となり、その結果視聴者が非常に増えていきました。これらの配信では前述の通り、視聴者とリアルタイムで文字のやりとりができるので、そこで賞賛されたりけなされたりするのですが、視聴者の数が日々うなぎ登りなのを目の当たりにして有頂天になっていたのでしょうか。

その後彼はさらに視聴者からの反応を得ようと、家の中からの配信に留まらず、PCとカメラ、携帯用ネット回線を持って外からも配信を繰り返すようになり、立ち入りが禁じられている場所や店舗などから勝手に配信を行い、その後警察に職務質問をされている様子をも配信したり、川崎で起こった少年殺人事件の被害者の葬儀にまで押しかけて配信をしたりと次第にエスカレートして各所でトラブルを起こすようになります。

その行為の延長線上で今回とうとう逮捕されるに至

った訳ですが、彼をそれらの問題行動にまで追い立てたのはやはり視聴者による応援と要求であったと思います。

実社会で孤独だが ネットで優越感が

この少年にも言えるようですが、一般的に実社会で友達が少なかつ

たり、家族とうまく行っていないか、たりして居場所がなく、リアルなつながりが薄い子どもたちがネットに入り込んだ結果、ふとしたきっかけから見ず知らずの人たちとつながりを持ち、そちらに依存していく傾向はよく見られます。

これは前号で紹介した「つながり型依存」の典型ですが、近年そのきっかけとしてこのようなネット放送やオンラインゲームが多いと言われています。実社会で存在感が薄い子どもたちが、ネットの世界で新たな友達や仲間を得て、注目されることで得られる優越感からより依存を深めていくのです。

もちろん、ネット上で友達を得て、交流していくこと自体に問題はありませんが、ネットの世界だと相手の素性が分からないので、様々なトラブルに発展することも多くあります。

支援者が煽り行為 犯罪の温床になる

今回のケースでは複数の支援者が少年に対して総額100万円近くの支援をしたことが明らかになってきていますが、その見返りとして「もつと面白いことをしろ」、

「もつと話題になるようなことをしろ」と煽られていた可能性は十分にあります。その結果として少年の行動がどんどんエスカレートし、迷惑行為を繰り返していたとしたらそれを煽った周りの支援者にも責任はあるのではと思います。

インターネットの回線や機器が進化し、例えばスマートフォンが1つあれば、どこからでもライブ配信ができるようになってきました。そのようなかつては夢だったことが実現できるようになったのは素晴らしいことだと思いますが、現状のライブ配信の使われ方は少し違和感があります。

配信をする方も視聴する方もあまり目的がなく、時間つぶしをしているに過ぎない印象がとても強いのです。そしてその中にはこの少年と同様に視聴者に煽られた結果、度が過ぎた犯罪行為に及んだものを配信するようなことも数多くあります。

ライブ配信者の 困り果てた行為

▼営業中の喫茶店内に爆竹を投げ入れ、その様子を配信



「ドローン少年」これからどうなる?

三社祭で飛行計画

LIVE 麹町署

ドローン少年逮捕のニュース：彼はスマートフォンだけでなく、ノートPCも常備しており、より高度な配信をしようとしていたようです（画像はFNNニュースより）

▼コンビニの商品に異物を混入するふりをして、その様子を配信

▼スーパーで万引したとして、その様子を配信

▼家の中で花火に火をつけ、配信

▼無免許で車を運転し、配信

▼動物を虐待し、その様子を配信

▼故意に電車を止め、その様子を配信

▼電車の中で奇声を上げたり、騒ぎを起こして配信

▼無銭飲食をして配信

▼不法に住居侵入をし、配信

▼仮面を被って飲食店に行き、店員より注意される様子を配信

▼職務質問されている様子をわざと配信

▼車で故意にスピード違反をして、配信

▼配信中に全裸になり、配信

このような事例は非常に多くありますが、ほとんどが重大な犯罪行為です。より多くの人の注目を浴びたいという心理とそれから得られる優越感、そしてまわりからの煽りや行為を行ったことに対する



ドローン少年を支援していた男性の証言：「とにかく何をするか分からないといふところに惹かれていた」（画像はFNNニュースより）

る報酬につられて行動がエスカレートした結果、実際に罪を犯してしまう」という心理に至ってしまうのです。

これらは面白おかしくいたずらなどをするテレビのバラエティ番組などに影響されているのかも知れませんが、見ている方は単に「楽しいから」という理由で自分の身分も明かさず、時に金銭を使って

まで配信者を煽り、犯罪行為に駆り立てるわけです。

配信作業に追われ生活が深刻な状況

ネット上で番組を作って配信したり、生放送をしている人たちの全てがこのような行為を行っているわけではありませんが、特にライブ配信にはまってくると「特定の時間に配信をしないと視聴者に

悪い」という心理が働き、だらだらと時間を浪費して行うようになります。その結果、生活時間が乱れ、学校や会社に行けなくなるなど深刻な状況になる若者が急増しています。

インターネットとスマートフォンとの誕生と発展によって、様々な機能が提供され、いつでもどこでもインターネットにリアルタイムで接続できるようになった結果、便利さの裏側にこのような弊害も発生しているわけです。スマートフォンは便利な反面、常に携帯しているため、いたずらに自分の時間を奪われてしまいます。その機能が無限に実装されつつある今日、やはりうまく使いこなしていくためには、道具と割り切って本来に必要な機能のみを使うように努めなくてはならないように思います。いくら便利な道具が出現したとしても人間の時間は有限です。これからの時代はどのように時間を確保してこのような新しい道具を使いこなしていくかということが極めて重要になるのではないのでしょうか。